

事業計画書

1 事業名称	マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
2 協働事業の内容及び実施方法	<p>(1) 事業の目的</p> <p>本事業は、区民の「参加と協働」により、区のみどりを保全・創出するための活動であり、草の根のグリーンインフラ整備活度である。</p> <p>人口減少社会に転じ、経済の低迷が続く日本で、世田谷区は幸い例外的な状況にある。とはいえ、人口増は都市化の進行、すなわちみどりの保全の阻害要因であり、実際、区のみどり率は、最新調査の結果、再び低下した。また、区内に遍在するすべての区有地のみどりを、行政が常に適時適正に管理することは、極めて困難である。</p> <p>「世田谷みどり33」は、量・質・協働の三位一体の行政方針である。名称のイメージからも忘れられがちな質の維持向上と協働を促進し、また、多くの区民が土に親しむことを望みながら、主に住宅事情から阻まれている現状を克服するために、マイクロ・コモンズの仕組みづくりと実践から成る本事業を提案するものである。</p> <p>(2) 事業の内容</p> <p>* 実施体制や実施手法を含めて記入すること。</p> <p>◇事業の主たる内容</p> <p>《地域の小規模な自然資源を、市民自ら管理・利活用（すなわち「コモン化」）する活動》を行う。本来、コモンは、①地域の自然資源 と ②その共同管理制度 を意味するが、今般、我々は前者（①）をマイクロ・コモンズ（以下、MC という。）と呼び、</p> <p>MC1＝公道の緑地帯／MC2＝小規模緑地・街区公園／MC3＝新庁舎の広場と屋上庭園 以上の3タイプを計画する。</p> <p>また後者（②）については、「スチュワードシップ制度」の新設を目指す。</p> <p>◇実施体制</p> <p>団体内部： MC 事業委員会を設け、MC 研究会で論点整理や実施計画の立案を行う。具体的活動はタスクフォースによって機動的に実施するものとする。</p> <p>協働の相手先： MC1・2→みどり政策課、MC3→庁舎管理担当課とし、スチュワードシップ制度は、みどりのインフラ整備は都市計画の重要課題であること等に鑑み、都市計画課の伴走を得て行う。</p> <p>諸機関・団体との協働： 広くMCの企画や運営面での協力を仰ぐ。</p> <p>◇その他</p> <p>将来的には多くの区民の参加を得て、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スチュワードシップ＝市民参加によるみどりの創出・維持システムという制度資本 ・その成果物たるMC＝市民に身近なグリーンインフラ（環境・社会インフラ） <p>以上二つの「社会的共通資本」が、世田谷モデルとして他に波及することを目指す。</p> <p>(3) 令和5年度事業完了予定日</p> <p style="text-align: center;">6 年 2 月 29 日</p>
3 協働の必要性及び役割分担	<p>(1) 区の担当課</p> <p>みどり政策課／庁舎管理担当課／都市計画課</p> <p>(2) 協働する意義・必要性</p> <p>MCの実現の場は、公有地である公園緑地や庁舎施設であり、場の確保のためにも仕組みづくりのためにも、区との協働は必須である。</p> <p>異なる3課との協働は、あまり例のないことと思うが、実際には公園緑地課など、さらに多くの課に了解を得るべき局面が出てくることは重々承知している。しかし、それは3課のいずれかに仲介の労をとっていただくことで、当面は乗り切れるものとする。</p> <p>かつて成城地区のリージョナルな取組みであった落ち葉の清掃活動は、協働事業化によって、〈世田谷落ち葉ひろいリレー〉として全区的催しとなり、その後、他の自治体へまで波及した（東京みどりの研究会所属の7自治体関係者による現場視察・練馬区での試行）。</p> <p>同様の成果を期して、3課との協働に取り組みたい。</p>

	(3) 役割分担	提案団体	<p>① MCの実現を目指す団体内体制の整備：MC事業委員会（MC研究会＋各事業TF）の立ち上げ</p> <p>② 研究と実践の過程・成果を一般に知らしめるシンポジウムの開催・メディアの活用（『ランドスケープデザイン』2023年12月発売号での特集掲載ほか）</p> <p>③ 広く知見とプレイヤーを外部個人・団体・機関に求める活動の推進 など</p>
		区担当課	<p>■ みどり政策課：世田谷みどり33の視点（特にみどりの質・協働）からの提言および土木課・公園緑地課へのブリッジ</p> <p>■ 庁舎管理担当課：区民交流施設の総合運営計画に基づく企画提言・区の活動と役割分担による、屋上庭園・広場の管理・利活用計画の円滑な推進</p> <p>■ 都市計画課：管理部門等への情報提供と調整・助言</p>
	(4) 地域の団体との連携	<p>過去2年にわたり、PSACEが後援してきた〈世田谷落ち葉ひろいりレー〉の主催団体である「世田谷みどり33協働会議」、MC2候補地で活動する「峰松緑地が気になるグループ」など、多数の団体との協働を予定。</p>	
4 協働の成果・効果	(1) 期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	(団 体) *初年度の主な活動	<p>MC1：地元有志の団体「桜木清掃部」による道路清掃活動（毎週実施）で、植栽内に散見されるゴミ実態を記録、将来における比較対照のデータとする。</p> <p>MC2：区立峰松緑地での地元団体の活動を、今後のMC2プロトタイプとして確立すべくサポートする。</p> <p>広報活動：『ランドスケープデザイン』での特集編集協力・2月のシンポジウムにより、広く我々の活動内容を知らしめ、次年度以降の参画希望団体を掘り起こす。</p>
		(区担当課) *初年度の主な活動	<p>MC3：竣工が2年後であるため、初年度に成果を提示することはできないが、グリーンアップサイクル・プランターの試作品の効果を共に検証するなど「2年後のために」準備を進めることは大いに意義がある。</p> <p>スチュワードシップ制度：MC3同様、団体と共に他の自治体の事例を研究し、現行制度の課題を探ること等は、具体的な制度設計のために、必須のプロセスであると思料する。</p>
	(2) 事業の成果の活用方法、将来の展開	(団 体)	<p>本事業には課題が多いことは承知しているが、例えば公道上での活動は、ポートランド市でも目黒区でも実践され、成果を上げている。世田谷区にできぬはずはない。課題が多いからこそチャレンジの意味があるのであり、ベンチマーク対象となり得る優良事例を、多くの市民・団体の参画を得て創出したい。</p>
		(区担当課)	<p>区施設の管理における市民（団体）へのエンパワーメントの先事例となるだろう。それは緑化空間のみならず、新庁舎の区民交流スペースなどでの応用が可能であり、市民の「参加と協働」を促進する恰好のモデルとなり得る。また、管理運営のみならず、制度設計における「参加と協働」＝住民自治のあり方を示すものともなる。</p>
5 その他			<p>2年前のMC創案時から、プランの検討および関係者間のコンセプトの共有に努めてきた。メディアでは『セボネ』（世田谷ボランティア協会）／『ランドスケープデザイン』（マルモ出版）／『都市計画』（日本都市計画学会）等で紹介乃至言及されてきたほか、セミナー等での発表機会も回を重ねている。</p> <p>PSACEは、世田谷区とポートランド市との都市間交流の中心的役割を担っており、MCプランの最初のプレゼン機会となったみどり33推進部でのミーティングの際には、当時みどり政策課に在籍していたドーン・ウチヤマ氏（現ポートランド市環境局長）が同席した。会長の小林正美氏以下多数の学識経験者をはじめ、古沢洋志氏（元在ポートランド領事事務所総領事）や、実務家・活動家メンバーの多彩な顔触れは、区内でも最も人材に恵まれた団体の一つであると思う。</p>
	*提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど		

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など	(1) 昨年度の協働事業の効果・実績	
	(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など	
	(3) 協働事業を継続する理由	

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容		
2023年	主たる業務	シンポジウム	メディア
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・〈MC事業委員会〉正式発足 MC研究会：論点整理・課題検討スタート タスクフォース：TF発足・活動スタート ・〈PSACE年次総会〉 セミナー開催～MC事業について報告 ・MC1～3 MC1：候補地選定着手 MC2：他自治体の事例研究 峰松緑地での実践（活動計画の立案込み） MC3：前年度までの委員会での検討を引き継ぎ協働着手 ・スチュワードシップ：制度化のための研究着手 ・グリーンアップサイクル：プランター研究着手 	<p>開催日時： 2024年2月 平日夜間または土日午後</p> <p>会場： 北沢タウンホール または成城ホール</p> <p>内容： 講演＋パネルディスカッション</p> <p>以上により計画</p>	<p>掲載誌： 『ランドスケープデザイン』2023年8月・12月発売号</p> <p>12月号記事内容： マイクロ・commons・スチュワードシップに関する特集 …ポータルランド／commons／スチュワードシップをキーワードとする記事で構成</p>
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンアップサイクル：プランター試作発注 	開催日・会場決定（予約）	8月発売号 記事掲載（4頁）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・MC2：他自治体の事例研究成果発表 峰松緑地をプロトタイプとするMC2 緑地管理準則策定 		12月発売号 特集詳細決定 原稿作成スタート
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・〈中間報告会〉 実績・今後の予定の発表 ・グリーンアップサイクル：プランター試作納品 ～コーシャハイム千歳烏山内に仮配置 	概要決定 登壇依頼スタート	特集記事入稿
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・〈JLAU主催国際会議〉 何らかのかたちで関与 ・〈世田谷落ち葉ひろいりレー2023〉～12月 後援・同時に広報面で世田谷みどり33協働会議および参加団体と連携 		特集記事校了
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・MC1：候補地選定終了 	告知スタート	発行
2024年	主たる業務	シンポジウム	メディア
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・スチュワードシップ：制度化のための方針確定 	登壇者・スタッフ打合せ／会場下見	シンポジウム会場での頒布
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度事業終了（2/29）・総括 	開催 終了後直ちに総括	総括

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額(円)	積算内訳
補助金	500,000	
自己資金	69,600	前年度繰越金より充当
合計	569,600	

【支出】

費目・内容	金額(円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	① 研究・企画・準備	100,000	90,400	① @1,000×延100人半日 ② @1,000×延60人半日 (シンポジウム12人/MC1・2各24人)
	② 当日運営	60,000	60,000	
	[小計]	160,000	150,400	
報償費	① 講師謝礼	40,000	40,000	① シンポジウム @20,000×2人 ② シンポジウム @7,000×2人 ③ シンポジウム @50,000×1人 *③は、印刷物に対応
	② 手話通訳	14,000	14,000	
	③ デザイン代	50,000	50,000	
	[小計]	104,000	104,000	
消耗品・備品費	① プランター	110,000	110,000	① グリーンアップサイクル @22,000×5台 ② グリーンアップサイクル @6,600×5本 ③ グリーンアップサイクル @660×10袋 *MC3のために特注
	② 苗木	33,000	33,000	
	③ 培養土	6,600	6,600	
	[小計]	149,600	149,600	
複写・印刷費	① 印刷費	66,000	66,000	① シンポジウムパンフレット 44,000(200部) フライヤー 11,000(1000) ポスター 11,000(20部) ② シンポジウム資料(5枚) 10,000(200点)
	② コピー費	10,000	10,000	
	[小計]	76,000	76,000	
広告・保険料	① 保険料	10,000	0	① MC1 @50×延100人=5,000 MC2 @50×延100人=5,000 *各々20人×5回を目安に想定
	[小計]	10,000	0	
使用料・賃借料	① レンタカー	30,000	0	① MC1 資材搬出入 @7,500×2回=15,000 MC2 資材搬出入 @7,500×2回=15,000
	[小計]	30,000	0	
交通費				
	[小計]			
その他	① 資料代	40,000	20,000	① スチュワードシップ 参考図書 20,000 雑誌 20,000 (雑誌 ランドスケープデザイン @2,000×10部)
	[小計]	40,000	20,000	
合計	569,600	500,000		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

[令和 5 年度提案型協働事業 様式]

☆日常の運営経費（団体等の日常運営の person 費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等）は対象外です。

団 体 の 概 要

団 体 名	世田谷ポートランド都市文化交流協会				
所 在 地	世田谷区		電話番号		
			FAX		
代表者氏名	小林 正美		役職	会長	
事業責任者 ※住所、電話番号・ FAX、Eメールは 公開しません。	氏 名	大坪 義明		役職	運営委員
	住 所				
	電話番号				
	FAX				
	Eメール				
設立年月 (活動開始年)	2018年 6月 (特定非営利活動法人設立： 年 月)				
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	顧問・会長・副会長・事務局長・会計・運営委員 10名 会員数： 個人・法人計 40名				
主な活動分野	■研究 ポートランドをはじめとする都市文化研究 ■啓発 ワークショップやシンポジウムなどの開催 ■交流 産官学民間および日米間の人的交流 ■協働 広範な市民の参加や実践、議論の場の創出 ■提言 グリーンインフラ政策にかかわる提言など				
主な活動実績 *行政との協働 の実績を含 む。	■研究/啓発 2018/06 キックオフシンポジウム以来、シンポ・セミナー開催多数 2020/10 ポートランドまちづくりスクール開講 (2期開催) ■交流 2019/10 ポートランド市長一行来日歓迎レセプションに協力・参加 2021/07 ドーン・ウチヤマ氏 (ポートランド市環境サービス局長) の翌年2月迄の日本滞在中、シンポジウム・見学会ほか交流を重ねる ■協働 2018/06 キックオフシンポジウム以来、区長・職員の登壇多数 2019/10 マルシェ My People's Market @SETAGAYA 開催にあたりポートランド市観光局・区・市民団体と連携・協働する (2022/05 も) 2021/11 世田谷落ち葉ひろいりレー2021 後援 (2022 も) ■提言 2020/06 PSACE 気候非常事態宣言 発表				
団体の ホームページ	https:// psace.jp				

選定委員からの意見

事業名：マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ

- 地域の小規模な自然資源の区民による管理・利活用を通して、区民の参加と協働によるグリーンインフラの整備につながる事業と評価できる。
- スチュワードシップのような区民の意識の醸成を、具体的なマイクロ・コモンズ（地域の自然資源）の変化を提示することにより促すという方法は、単なる講演や啓発事業に比べより効果的に実現できると期待できる。
- 今年度の事業におけるそれぞれのマイクロ・コモンズでの取り組みが、次年度以降のより多くの区民参加へとつながるよう取り組んでほしい。
- 提案団体と事業にかかわる区のさまざまな部局が協働することにより、区民参加によるグリーンインフラの整備に向けた区の部局間協働が進むことにも期待したい。